

# 薬剤部だより No.160

山口大学病院薬剤部 2003.5.20

## 外来患者さんにも注射薬説明文書をご利用ください

外来でも化学療法を行うケースが次第に増えております。治療中における日常生活の注意事項や他剤との相互作用、重大な副作用の初期症状などについて、患者さんに事前に情報提供しておくことは大変重要と考えています。例えば、タキソール30mg1Vにはビール50mL分のアルコールが含まれており、点滴直後に運転して帰られる場合もあることから注意が必要です。また、同時に服用することでベンゾジアゼピン系などは中枢抑制が増強される可能性もあります。抗癌剤の副作用についての情報は、控えめにしております(下図)ので、外来注射オードの際にも、注射薬説明文書をご利用ください。

あなたが受ける点滴のお薬の名前は タキソール注 です。

この薬での治療中には次のことに気を付けましょう。

ビールにしてコップ      杯程度のアルコールが含まれていますので、点滴直後の車の運転等はできるだけ避けてください。

次の薬との飲みあわせに注意してください。

安定剤を飲まれている方は、点滴中には飲まないようにしてください。

このお薬の副作用を少なくするために、事前に以下の薬が使われます。

抗アレルギー薬の飲み薬: レスタミン錠

過敏症を抑える注射薬: デカドロン注、ザンタック注

ご自宅で以下のような症状が現れた時は、医師または薬剤師に申し出てください

(日数は一般的な目安)



点滴から2～3日後 : 関節痛、筋肉痛

点滴から3～5日後 : 手足のしびれ、痛み

点滴から6～10日後 : 発熱

点滴から11日後 : のどの痛みなどの感冒症状、倦怠感

その他 : 吐き気、尿が褐色になる、髪の毛が抜ける、力が入らないなど

## 抗癌剤無菌調製の際は、正確な実施時刻を！！

病棟から薬剤部製剤室への中止連絡が遅れたことで、混注後の抗癌剤を廃棄した例が、5月に入ってから3件も見受けられました。金額に直すと74,515円の損害になります。このような無駄遣いを無くすため、以下の点にご注意ください。

病棟から薬剤部(製剤室2666)への中止連絡を徹底

抗癌剤の正確な実施時刻を必ず入力

患者の容態により、混注を待つて欲しい場合は、あらかじめその旨をコメント入力

時刻等の指示の無いものは、連絡があるまで調製しないこととします。

## (院)オスバングリセリン液は院内処方のみです！

これまで院外処方でおダできていた(院)オスバングリセリン液は、一般の保険薬局では滅菌操作ができない等の理由で払い出すことができません。院内処方でおダしてください。なお、自己導尿の患者さんは従来通りです。

## **医薬品集第14版(2003年度)ができあがりました**

医薬品集第14版(2003年度)が完成しました。ショッキングピンクの表紙が印象的です。各診療科に送付される受領書に、医師名・職名記載、押印の上、DIセンター(TEL2668)でお受け取りください(配布期間:5月21日~5月30日)。

なお、本年度新入医局員の方は、オリエンテーションの際に渡しますので、受領書には記載しなくてください。

## **手書き処方箋の記載モレが多くなっています!**

処方・注射共に手書き処方箋の記載モレが目立ちます。患者名、病棟名、実施日等の必要事項の記載モレがあると、効率的に調剤業務が行えません。特に時間外は、薬剤師1人で業務を行っているため、大変困っています。必ず、必要事項の記載モレがないか確認の上、送付してください。

なお、原則としては時間内にオーダするようにして、なるべく手書き処方は減らしましょう。

<記載モレの多い事項>

病棟名・外来診療科名

処方医師名・職員コード(注射薬処方箋)

薬品の規格

投与日数・投与回数

実施日・回数(正の字)

## **麻薬処方 は 人の手を介して!**

入院患者用の麻薬処方箋がボックスコンベアで薬剤部に送付されてくることが時折あります。麻薬処方 は、必ず医療スタッフの手で直接、受け払いすることになっています。麻薬処方をオーダされた際には、必ず薬剤部まで持参してください。なお、薬品の返却についても同様です。各病棟での徹底をお願いいたします。

## **リン酸コデインの表示を変更しました**

これまで、リン酸コデイン 100倍散の表示を用いてきましたが、リン酸コデイン 10mg/gへと変更しました。採用薬品およびオーダ方法、服用量、服用方法は今までと変わりありません。従来どおりにオーダしてください。

## **平成15年度の研修生は13名(女性7名)**

平成15年度の薬剤部研修生教育が5月から始まりました(日本薬剤師研修センターからの薬剤師実務研修の男性1名を含む)また、1月より大学院生(男性1名)も薬剤部で研修を行っています。医療の担い手として社会に貢献できる薬剤師を目指して頑張っています。服薬指導等で病棟を訪れる機会もあろうかと思いますが、その節はよろしくお願い致します。